

基礎看護学実習

1. 実習目標

1) 基礎看護学実習 I

- (1) 病院での対象者や看護活動の実際を見ることにより、対象者と看護について理解を深め、看護の学習への動機づけとする。
- (2) 日常生活の援助技術を実施し、観察及びコミュニケーション技術の基礎的能力を身につけ、根拠ある行動の理解を深める。

2) 基礎看護学実習 II

- (1) 看護実践を通して、看護を展開する基礎的方法を理解できる。

2. 実習構成

時期	区分	実習場所	単位
1 年 次	基礎看護学実習 I	病院実習	2 単位
	基礎看護学実習 II	病院実習	2 単位

* 実習時間には、実習ゼミ時間等の時間を含む

3. 実習内容

1) 基礎看護学実習 I

(1) 実習内容

実習内容	
1. 対象者から病院で生活している様子や思いを聞き、対象者の療養環境を理解する。	1) 対象者のもとへ訪室し、病院での生活の様子やその思いを聞く。 2) 病院・病棟・病室を見学、説明を聞く。 3) 対象者の1日の生活の様子を見学する。
2. 病院での看護活動の一部を知る。	看護師に同行し看護活動の実際を見学する。 (主に対象者との関わりの場面)
3. 対象者の生活状況から生活の自立度を考え、援助の必要性とその方法を理解する。	1) 対象者を理解するために情報収集する。 2) 対象者の援助の必要性とその方法を考え、援助計画を立てる。
4. 対象者への看護援助を介助・実施する。	1) 日常生活援助を計画に基づき、介助・実施する。 (清潔、衣生活、食事、排泄、活動・休息の援助のいずれか) 2) 環境整備を実施する。 3) ベッドメイキング(リネン交換)を実施する。
5. 看護援助を通して、根拠ある行動を理解する。	1) 行動につながる根拠を考える。 2) 援助後に振り返りを行う。
6. 看護援助を通して、対象者の反応および状態の変化についての観察を行う。	看護援助の前・中・後に対象者の表情や言動、必要な部分の観察を行う。

7. 看護援助を通して、対象者とのコミュニケーションの基礎的技術を理解する。	対象者とのコミュニケーションの場面の振り返りを行う。
8. 看護師としての基礎的な姿勢を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1) あいさつをする。 2) 時間・約束を守る。 3) 自己の健康管理を行い、欠席・遅刻をしない。 4) 用途や対象者に応じた適切な言葉を使う。 5) チームで協力して活動する 6) 理想の看護師像を考え、それにむけて必要な学習を行う。 7) 個人情報を適切に管理する。

2) 基礎看護学実習Ⅱ

(1) 実習内容

実 習 内 容	
1. 対象者の身体・心理・社会的状況から、対象者の状態を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者の病態生理や行われている治療・検査・処置などについて理解する。 2) 『患者さんの情報収集ガイドブック』(*1)を活用し、機能的健康パターンの枠組みで情報を意図的・系統的に収集し、分類する。
2. 対象者の現在の状況を整理・分析し今後の方向性を考える。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 『患者さんの情報収集ガイドブック』(*1)や『ナーシング・グラフィカ基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ』(*2)を活用し、分類した項目ごとにアセスメントする。 2) 分類した項目ごとに情報の正常・異常を判断し、異常の原因・誘因を考え、さらに今後の成り行き・予測について、アセスメントをする。 3) 対象者の看護上の問題を明確化する。 4) 対象者の看護上の問題の優先順位を考えながら、今後の方向性について考える。
3. 対象者の状況に応じた看護計画を立案する。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者の入院から退院までの経過を予測し、退院時の望ましい状況を看護目標として表現する。 2) 対象者の看護上の問題に対する期待する結果を挙げる。 3) 期待する結果に沿った具体策を立案する。 4) 具体策を項目ごと(OP/TP/EP)に整理する。
4. 立案した計画を対象者の状況を考慮して実施・評価する。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者の安全・安楽を考慮して、必要な看護技術を実施する。 2) 対象者の状況を観察し、期待する結果の評価を行う。 3) 評価により追加・修正をする。

5. 看護師としての基礎的な姿勢を理解する。

- 1) 時間・約束を守る。
- 2) 自己の健康管理を行い、欠席・遅刻をしない。
- 3) 用途や対象者に応じた適切な言葉を使う。
- 4) チームで協力して活動する。
- 5) 一日の行動計画を立案し、実施後の振り返りを行う。
- 6) 理想の看護師像を考え、それに向けて必要な学習を行う。
- 7) 個人情報適切に管理する。

地域・在宅看護論実習

1. 実習目標

1) 地域・在宅看護実習Ⅰ

- (1) 居宅で療養している人が利用できる施設での看護活動の実際を知る。
- (2) 居宅で生活している高齢者への地域での支援の実際を知る。
- (3) 施設へ入所している高齢者が、居宅での生活ができるための看護活動の実際を知る。
- (4) 居宅で療養している人の生活と訪問介護の実際を知る。

2) 地域・在宅看護実習Ⅱ

- (1) 地域での施設の役割を知る。
- (2) 施設で生活する高齢者の特徴が理解できる。
- (3) 施設で生活している高齢者が利用する施設での看護活動の実際が理解できる。

3) 地域・在宅看護実習Ⅲ

- (1) 訪問看護ステーションのある地域の特徴を知る。
- (2) 訪問看護導入の経過について理解できる。
- (3) 対象者とその家族の療養生活への看護活動が理解できる。
- (4) 社会資源の活用方法と関係職種との連携について理解できる。
- (5) 訪問看護における看護師の役割について理解できる。

2. 実習の構成

時期	区分	実習場所	単位
2 年 次	地域・在宅看護論実習Ⅰ	介護老人保健施設	3日
		ヘルパーステーション	1日
		心身障害者福祉センター	1日
		地域包括支援センター	1日
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	介護老人福祉施設	6日
3 年 次	地域・在宅看護論実習Ⅲ	訪問看護ステーション	5日
		合同カンファレンス	1日

*実習時間には、実習ゼミ時間等の時間を含む

3. 実習内容

1) 地域・在宅看護論実習Ⅰ

A 介護老人保健施設

(1) 目的

要介護者が居宅における生活を営むことができるよう心身の機能の回復・維持を図るための支援の実際を学ぶ。

(2) 目標

- ①介護老人保健施設の役割と機能が理解できる。
- ②対象者の居住する地域や在宅の状況をふまえた心身の機能回復を図るための支援の実際を理解する。
- ③対象者が地域で生活を営むための環境の調整とそれを支える職種間の連携の実際を理解する。

B ヘルパーステーション

(1) 目的

訪問介護を利用している療養者や家族の生活を知り、援助の実際を学ぶ。

(2) 目標

- ①療養者と家族を生活者としてとらえることができる。
- ②療養者と家族の生活がわかる。

- ③ホームヘルパーの役割が理解できる。
- ④看護職の役割について考えが深められる。

C 心身障害者福祉センター

(1) 目的

心身に障害のある人々への理解を深め、障害のある人々に対する支援のあり方と社会資源の実際を学ぶ。

(2) 目標

- ①心身に障害のある人々の環境について考えることができる。
- ②心身に障害のある人々の社会参加の実際と支援のあり方を理解できる。
- ③心身に障害のある人々に対する看護職の役割を考えることができる。

D 地域包括支援センター

(1) 目的

地域で生活する高齢者やその家族への支援について学ぶ。

(2) 目標

- ①地域包括支援センターの役割と機能について理解できる。
- ②地域包括支援センターにおける支援の実際についてわかる。

2) 地域・在宅看護論実習Ⅱ

介護老人福祉施設

(1) 目的

常に介護が必要な対象者が、施設においてその人らしい生活を営むための支援の実際を学ぶ。

(2) 目標

- ①介護老人福祉施設の役割と機能が理解できる。
- ②施設での対象者の生活が理解わかる。
- ③その人らしい生活を営むための生活環境と支援の実際がわかる。

成人・老年看護学実習

1. 実習目標

1) 成人・老年看護学実習Ⅰ

- (1) 急性の状態にある対象者・家族の特徴を理解できる。
- (2) 手術に対する生体反応と成人期及び老年期の患者の特徴をふまえた回復過程が理解できる。
- (3) 周手術期にある対象者の早期回復を目指した看護が理解できる。
- (4) 機能障害により生活の変容が必要となる対象者とその家族に対する看護を理解できる。

2) 成人・老年看護学実習Ⅱ

- (1) 生活機能障害のある対象者への看護が考えられる。
- (2) 疾病・障害を抱え生活する対象者・家族を理解し、心理過程に応じた看護を考えることができる。
- (3) 退院後の生活を見据えた多職種連携の必要性を考えることができる。

3) 成人・老年看護学実習Ⅲ

- (1) 対象者のエンパワメントを支援する援助を考えることができる。
- (2) 慢性疾患を有する人の体験することについて理解できる。
- (3) 対象者の意思決定とその人らしい生活に向けた援助について理解できる。
- (4) 慢性期にある対象者のチーム医療の連携と看護師の役割が理解できる。

4) 成人・老年看護学実習Ⅳ

- (1) がん治療を受ける対象者の看護が理解できる。
- (2) 全人的苦痛を緩和するための基本的な看護について理解できる。
- (3) 最期を迎える対象者および家族の心理を発達課題と合わせて考えることができる。
- (4) 尊厳ある死および自らの死生観について考えることができる。

2. 実習構成

時期	区分	実習場所	単位
2 年 次	成人・老年看護学実習Ⅰ 急性期にある対象者の看護	病院実習	2単位
	成人・老年看護学実習Ⅱ リハビリテーション期にある 対象者の看護	病院実習	2単位
	成人・老年看護学実習Ⅲ 慢性期にある対象者の看護	病院実習	2単位
3 年 次	成人・老年看護学実習Ⅳ 終末期にある対象者の看護	病院実習	2単位

実習時間は、実習ゼミ（事例を用いた看護技術練習・患者理解のためのグループカンファレンス等）の時間を含む。

3. 実習内容

区分	実習内容
成人・老年看護学実習Ⅰ	・周手術期にある対象者の看護 ・手術室見学（1日）
成人・老年看護学実習Ⅱ	・リハビリテーション期にある対象者の看護 ・退院支援
成人・老年看護学実習Ⅲ	・慢性期にある対象者の看護 ・患者教育場面の見学

1) 成人・老年看護学実習Ⅰ

A 病棟

(1) 目的

周手術期にある対象者及び家族の看護を理解する。

(2) 目標

- ①対象者の発達課題に応じた看護を考えることができる。
- ②急性の状態にある対象者・家族の特徴を理解できる。
- ③手術に対する生体反応と回復過程が理解できる。
- ④周手術期にある対象者の早期回復を目指した看護が理解できる。
- ⑤機能障害により生活の変容が必要となる対象者とその家族に対する看護を理解できる。

B 手術室（見学1日）

(1) 目的

手術前後の看護師の役割及び手術看護について理解する。

(2) 目標

- ①手術を受ける患者や家族の特徴を理解する。
- ②手術室における看護の実際から看護師の役割が理解できる。
- ③手術室における医療チーム間の連携と看護師の役割が理解できる。

2) 成人・老年看護学実習Ⅱ

(1) 目的

回復期からリハビリテーション期にある対象の特徴を理解し、その変化に応じた看護の実践を学ぶ。

(2) 目標

- ①対象者の発達課題に応じた看護を考えることができる。
- ②対象者の健康レベルに応じた看護が理解できる。
- ③生活機能障害のある対象者への看護が理解できる。
- ④疾病・障害を抱え生活する対象者・家族を理解し、心理過程に応じた看護を考えることができる。
- ⑤退院後の生活を見据えた多職種連携や社会資源の必要性を考えることができる。

3) 成人・老年看護学実習Ⅲ

(1) 目的

対象の発達段階をふまえ、慢性期疾患をもつ対象者とその家族に対しての看護の実践を学ぶ。

(2) 目標

- ①対象者の発達課題に応じた看護を考えることができる。
- ②対象者の健康レベルに応じた看護が理解できる。
- ③対象者の意思決定とアドヒアランスを支援する看護を理解できる。
- ④慢性疾患を有する人の体験することについて考えることができる。
- ⑤退院後の生活を見据えた多職種連携の必要性を理解できる。

4) 成人・老年看護学実習Ⅳ

A 病棟

(1) 目的

最期を迎える対象を全人的に捉え、対象に必要な看護の実践を学ぶ。

(2) 目標

- ①がん治療を受ける対象者の看護が理解できる。
- ②全人的苦痛を緩和するための基本的な看護について理解できる。
- ③最期を迎える対象者および家族の心理を発達課題と合わせて考えることができる。

④尊厳ある死および自らの死生観について考えることができる。

B 緩和ケア病棟

(1) 目的

最期を迎える対象を全人的に捉え、人生の最後の時期を支える看護の実際を学ぶ。

(2) 目標

①緩和ケア病棟における患者や家族の特徴が理解できる。

②緩和ケア病棟における看護の実際から看護師の役割が理解できる。

③緩和ケア病棟における医療チーム間の連携と看護師の役割が理解できる。

④尊厳ある死および自らの死生観について考えることができる。